厚生労働科学研究費補助金（エイズ対策政策研究事業）
「拠点病院集中型から地域連携を重視したHIV診療体制の構築を目標にした研究」
令和2年度　分担研究報告書

【研究分担課題名】地域連携を促進するために解決すべきメンタルヘルスケアについての研究

研究代表者　猪狩　英俊　千葉大学医学部附属病院・感染制御部長　准教授
研究協力者　田代　萌　　伊藤菜穂子　　渡邉　未来
千葉大学医学部附属病院　感染制御部　技術補佐員　カウンセラー

研究要旨：近年では HIV 感染者に共通したメンタルヘルス上の問題とそれに伴う心理的な支援が議論されるようになってきた。一方で、こうした HIV 感染者の心理的な特徴については、医療者においてもあまり知られていない。本研究では、HIV 感染者の心理的特徴とストレス・コーピングの特徴について明らかにするために、患者 50 名に質問紙調査をおこなった。心理的特徴としては、抑うつと不安を指標とした。また、ストレス・コーピングとしては「感情表出」、「情緒的サポート希求」、「認知的再評価」、「問題解決」の 4 下位尺度で測定した。調査の結果、HIV 感染者の半数程度に抑うつや不安が認められ、HIV 感染者の心理面での問題の把握につながった。さらに、HIV 感染者はストレスへの対処行動自体が少ない傾向にあり、特に、肯定的・積極的なストレス・コーピングを用いないことが、抑うつや不安と関連している可能性が示唆された。これらの結果が、医療者側の HIV 感染者への理解を深め、より適切な援助の提供につながると期待される。

A．研究目的

HIV 感染者のコーピング・ストラテジーについて探索的に検討する。それによって HIV 感染者のコーピングの傾向を把握する一助となることが考えられる。また、不安や抑うつに関しても測定を行い、現在の心理的特徴の把握にもつとめ、どのような援助が今後有効となりうるかを検討していく。

B．研究方法

外来に通院している HIV 感染者の中で同意のとれた 50 名を対象に、①SCQ ストレス・コーピング尺度（気持ちや表情を態度に表す「Ⅰ：感情表出」、人との関わりの中で気持ちを落ち着かせようとする「Ⅱ：情緒的サポート希求」、良い方向へ考え直したりプラスになることを探そうとする「Ⅲ：認知的再解釈」、嫌悪的な出来事を何とかして解決しようとする「Ⅳ：問題解決」の４下位尺度から成る）、②SDS 抑うつ尺度、③STAI 不安尺度（検査時の不安の程度を問う「STAI-S：状態不安」、普段の不安の程度を問う「STAI-T：特性不安」の２下位尺度から成る）、の３つの質問紙を実施し、回答を求めた。実施期間は 2020 年 4 月～12 月であった。

C．研究結果

１．記述統計

①SCQ：下位尺度ごとの平均値は「感情表出」13.1 点、「情緒的サポート希求」10.8 点、「認知的再評価」18.9 点、「問題解決」19.2 点であった。なお、SCQ 尺度標準化の際の平均値は、順に、23.0 点、24.3 点、25.8 点、26.4 点である。

①SDS：「抑うつ」の平均値は 39.7 点であった。なお、抑うつの程度による分類では、正常範囲（~39 点）25 名、軽度（40～47 点）17 名、中等度（48～55 点）3 名、重度（56 点～）5 名となった。

②STAI：「状態不安」の平均値が 38.4 点、特性不安の平均値が 42.1 点であった。STAI のカットオフ点に従うと、不安が高いと判定されたのは、状態不安（カットオフ：男性 48 点以上、女性 46 点以上）では 9 名、特性不安（カットオフ：男性 49 点以上、女性 48 点以上）では 11 名であった。

２．相関分析

SCQ 、SDS、STAI の３尺度間で相関分析を行なった結果（表１）、SDS と STAI の 2 下位尺度のそれぞれに正の相関がみられ、特に SDS と STAI-T の間に強い正の相関がみられた。また、SCQ と SDS、STAI の間では、SCQ 下位尺度の「認知的再解釈」および「問題解決」は、SDS、STAI のいずれとも負の相関がみられた。一方、「感情表出」は特性不安との間において弱い正の相関を示した。

表１．ストレスコーピング下位尺度と抑うつ・不安における相関分析結果

	SCQ Ⅰ 感情表出	SCQ Ⅱ 情緒的サポート希求	SCQ Ⅲ 認知的再解釈	SCQ Ⅳ 問題解決	SDS 抑うつ	STAI-S 状態不安	STAI-T 特性不安
SCQ Ⅰ	1.00						
SCQ Ⅱ	0.38	1.00					
SCQ Ⅲ	-0.05	0.26	1.00				
SCQ Ⅳ	0.04	0.33	0.83	1.00			
SDS	0.15	-0.07	-0.53	-0.43	1.00		
STAI-S	0.19	-0.13	-0.36	-0.27	0.56	1.00	
STAI-T	0.36	0.06	-0.49	-0.36	0.84	0.58	1.00

D.考察

１．HIV 感染者の心理的特徴について

抑うつについては、軽度～重度をまとめると、HIV 感染者全体のうち 50%が抑うつ状態にあることが明らかとなった。特に、重度の抑うつ状態にある者は全体の 10%であった。また、不安についても、検査時点での状態不安の程度は特性不安に比べて低かったものの、22%の者は日常的に不安が高い状態にあると判定された。抑うつと不安の間の相関が高いことを考えると、HIV 感染者の半数近くはメンタルヘルスの問題を抱えていると理解できるであろう。しかし、これらの者のほとんどは精神科受診やカウンセリングなどのケアを受けていないことが確認されており、HIV 感染者のメンタルヘルスへの対応の重要性が示唆される。

２．HIV 感染者のストレス・コーピングについて

ストレス・コーピングの下位尺度の得点はいずれも SCQ 尺度標準化の際の参考となる平均値に比べて低く、HIV 感染者がストレス・コーピング全般について消極的である様子が窺えた。特に、「認知的再解釈」や「問題解決」を行なわないことと、抑うつや特性不安の高さが関連していると考えられることから、HIV 感染者の抑うつや不安の改善のために、こうしたストレス・コーピングの取り組みを支援する視点も有効と思われる。一方、「感情表出」において特性不安の高さとの関連が見られたことは、HIV 感染者が示す「感情表出」行動の心理的な背景の理解につながり、支援の際の参考になると考えられる。

E．結論

HIV 感染者のストレス･コーピングの特徴として、ストレス対処行動自体が抑制的であることが示された。また、HIV 感染者の心理的特徴として、抑うつや不安が高い者が半数に及ぶことが明らかとなったが、特に、肯定的な認知的解釈や積極的問題解決の抑制が関わっている可能性が示唆された。これらのことから、HIV 感染者への支援として、メンタルヘルスへの配慮と、カウンセリング等での心理面および認知行動面へのアプローチが重要であると考えられる。

F．健康危険情報

本研究では介入研究ではないため特記すべき健康危険情報はありません。

G．研究発表

1　論文発表　なし

2　学会発表　なし

3　その他　なし

H．知的財産権の出願・登録状況

現時点では特許取得、実用新案登録の予定はありません。